



◎ 最終評価のまとめ(自己評価及び学校関係者評価)

☆ 自己評価

○重点取組項目について

(1) 落ち着いた学習環境づくりと学力向上**① 学習環境づくり**

教室等、授業を受ける場所の清掃、整頓については、かなりできてきた。授業規律の徹底についても、教務課を中心に組織的に生徒に働きかけている。学期初めの生徒が落ち着かない時期には、学年団でサポートに入っている。

ステージアッププロジェクト(SUP)に全学年で取り組んでいる。SUPとは、授業開始時に机上の整理と準備、服装の確認と指導、きちんとした挨拶を行う取組のことである。

② 授業改善

授業改善については、教務課、授業改善研究会を中心に様々な取り組みを行っているが、教員の授業改善に対する意識を、もう少し高める工夫が必要である。生徒指導に労力を取られ、授業改善まで、手が回りきらない現状がある。10月には、勝間田小学校の授業を参観させてもらい、授業に関する意見交換を行った。15名の教員が参加し熱心に意見交換できた。

基礎学力の定着についても、義務教育段階の学びなおしを含めて、学校設定科目の導入等を決定した。

(2) 生活習慣の確立と規範意識の定着

生徒課を中心に、学年団、学科、厚生課、進路指導課がたくさんの取り組みを行い、多くの労力を割いている。特に勝高三訓(①挨拶・身だしなみ ②時間厳守 ③整理整頓)については、学校を挙げて取り組んでおり、生徒にもかなり浸透してきた。注意されれば、ほとんどの生徒ができるようになっている。職員室、進路指導室等への出入りの挨拶については、非常によくできるようになっている。

教育相談については、特別支援教育の視点が必要な生徒への対応も含め、生徒に対する精神的なサポートを行っている。

う歯の治療率を上げるべく生徒・保護者への、啓発を行い、治療率 42%を達成することができた。

(3) 豊かな心の涵養

学校行事、ボランティア、校内外での交流学習等を通じ、他の人の役に立てることの喜びや、やりきることのできた達成感を味わわせる取り組みを行っており、大きな成果を上げている。

小学校との交流は、生徒にとっても大きな自信となり、豊かな情操を育てることができている。

人権教育、道徳教育についても、すべての教育活動の中で、意識的に指導できるよう、さらに体制を整備していきたい。

(3) 進路指導の充実

キャリア教育については、進路指導課を中心に各学科で計画的に取り組んでいる。インターンシップが充実してきた。成果も上がっている。

1月末の就職内定率が91%である。進学希望者の決定率は1月末現在94%である。

(4) 学校広報活動の充実と開かれた学校づくりの推進

生徒募集については、管理職と学校運営委員が連携して中学校をこまめに訪問している。中学校での学校紹介も改善し、卒業生からのビデオレター等も取り入れた。
教務課企画広報係が中心となり、本校の良さを伝えるための新たな工夫に取り組んでいる。勝間田高校ガイドブックの作製・配布、授業公開の対象を中学生の保護者にまで拡大した点、説明会や中高連絡会で生徒の発表を取り入れた点などである。
学校のホームページについて、更新をこまめに行えるよう、モデルチェンジをし、学校の活動が生き生きと伝えられる体制ができ、更新回数も増えている。
出願状況は次のとおりである。(自己推薦出願者数/募集定員) 総合学科(55/70) グリーン環境科(23/35) 食品科学科(36/35) 産業工学科(27/35) 依然として厳しい状況である。

(5) その他の重要な取組

総合学科の、系列の変更を検討している。学校としての個性と特色を、より明確にして、魅力づくりを進めるために、文化・教養系列を廃止し、生活系列を被服系列(仮称)に変更する。被服系列では、被服を重点に学習させ、3年次でファッションショーができるようにしたい。平成26年度入学生から実施する。
グリーン環境科においては、学習内容を整理し、生徒が高い専門性を身につけることができるよう教育課程を変更している。平成25年度入学生から。

○学校自己評価アンケートの結果の分析

(1) 20項目のうち、生徒、保護者、教職員を平均すると、21.6%の項目で結果良好、16.7%の項目に課題がある。
(2) 過去3年間、全体として大きな変化は見られない。
(3) 生徒指導、進路指導については、評価が高い。
(4) 家庭学習については、3者ともに課題があるととらえているが、改善ができていない。
(5) 「部活動では、目標を持って積極的に活動している」という項目が3者とも評価が低い。原因を検討する必要がある。

☆ 学校関係者評価委員

- 檜本学(日本原荘事務長)
- 木村泰二(本校校友会参与)
- 横林義和(本校PTA会長)
- 福田淳子(美作警察署交通指導員)
- 山根文恵(勝央町教育委員)

学校関係者評価のまとめ

学校の魅力づくりについて	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 総合学科の系列変更の案は、目的が明確になりいいと思う。被服検定の1級を取ることができるようになることは、学校の魅力になると思う。 ☆ 伝統の部活動である、剣道、なぎなたの活躍を期待する。 ☆ もう一つ上を目指す学校、この学校に入りたいから入学したという生徒が大多数である学校になってほしい。
生徒の様子について	<ul style="list-style-type: none"> ○ 清風祭文化の部で、生徒が本当によく動いていた。 ○ 農業クラブの県大会において、生徒の様子が立派であった。 ▲ 最近、スカートの短さ、駅でたむろする様子など否定的な評価の声が多くなったように感じる。
生徒の指導について	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 企業の方からのマナー研修は続けてほしい。
広報について	<ul style="list-style-type: none"> ☆ 勝央町の無線放送をもっと活用するとよい。 ☆ テレビ津山も活用して欲しい。 ☆ マロマロンをもっと宣伝してはどうか。 ☆ 中学校の先生からもっと進めてもらえるよう、広報を工夫してはどうか。 ☆ ホームページ上で中学生などが、学校の内容について質問できるシステムを作ってはどうか。

☆ 来年度の課題と取組

○全体での取り組み

(1) 授業改善の取組の充実・強化
(2) 発達障害を持つ生徒の支援を含んだ、学級経営、授業運営の充実
(3) 地域、地元産業、地元企業との連携の強化による生徒の主体性、社会性を育てる取組の充実
(4) 卒業後、地域で貢献できる人材育成に関する取組
(5) 地域との連携を生かした、学校の魅力づくりに関する取組

○分掌ごとの取組

分掌名	来年度の課題	対応策
生徒課	特別指導件数を減らすこと。	問題行動を起こす前に気になる生徒への早めの対応(面談、保護者連絡等)をする。
進路指導課	就職活動を継続できない生徒を減らすこと。	ハローワークとの連携を更に強め、「自分も就職できる」という展望を持たせる。